

# 赤坂、常盤、歌川めぐり

## 歴史と景観

### 歴史を伝えるもの

**1 遠構え跡**  
高崎城下の外堀りを遠構えという。長野堰の分水、新井堰が四ツ屋、赤坂境より遠構えに流れ込み、長松寺の北裏を流れている。

**2 木戸跡**  
上の木戸は常盤町交差点、町口木戸は長松寺の南辺りにあったとされる。木戸内には御番所が置かれていた。

**3 大津屋跡(薬種問屋)**  
瀧川喜平の居宅と店舗があった。黒塗りの土蔵造りの店舗で、店の黒壁の前に「右三国道、左中仙道」と刻まれた道しるべがあった。

**4 官宅跡**  
明治時代、この界隈に歩兵第十五聯隊の官舎があった。家屋は平屋で、板塀がめぐらされ、枳殻の垣根などもこの界隈の特徴。

**5 神武遥拝所跡**  
明治初期、禊社中の信徒が建築。上和田の低い境内は桜見物で賑わった。祭典は毎年四月三日であった。

**6 鯉池跡**  
長松寺の北の坂下は湿地の堀で鯉池と呼ばれた。そこに川魚を出す小料理屋や茶店があった。賑やかであったという。

**7 長松寺の水車跡**  
長松寺北東隅と北西の一角に長松寺の水車があった。得利稲荷を下った所の水車は、元禄三年(1690)に廻り始める。高崎藩の公認水車であった。ウナギや鮭が上るほど水の流れがきれいであつたといふ。

**8 神武三階湯跡**  
神武遥拝所の南に「神武三階湯」があった。「奥の湯」の上和田鉱泉とともに親しまれ、大勢の客で賑わったという。

**9 赤坂町の山車**  
三代目の山車、大正十二年(1923)のもの。人形は猿田彦(おまゐり)に金の立烏帽子を冠っている。大神。猿面に金の立烏帽子を冠っている。

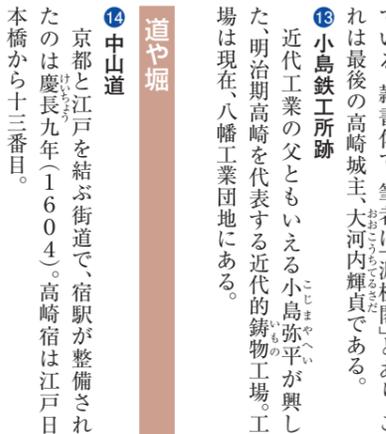
**10 常盤町の山車**  
昭和五十六年(1981)焼失。町の宝、伝統を後世に引き継ぐとの一念から、昭和五十七年(1982)に復元。人形は牛若丸。

**11 歌川町の山車**  
山車は大正十三年(1924)のもので、人形は藤原定家。定家と藤原家隆が旅の途中に行き合い歌を詠みあつたことからこの人形になったとされる。

**12 「高崎学校」の額**  
中央小学校玄関に「高崎学校」の額が掛かっている。隷書体で、筆者は「源桂閣」とあり、これは最後の高崎城主、大河内輝貞である。

**13 小島鉄工所跡**  
近代工業の父ともいえる小島弥平が興した、明治期高崎を代表する近代的鑄物工場。工場は現在、八幡工業団地にある。

**14 中山道**  
京都と江戸を結ぶ街道で、宿駅が整備されたのは慶長九年(1604)。高崎宿は江戸日本橋から十三番目。



15 吉兵衛堀 16 小島鉄工所跡 17 「高崎学校」の額 18 歌川町の山車 19 常盤町の山車 20 赤坂町の山車 21 鯉池跡 22 神武遥拝所跡 23 大津屋跡

**15 三国道**  
本町一丁目交差点が分岐となり、西に中山道、北に三国道と分かれる。

**16 吉兵衛堀**  
清水吉兵衛が開いたとされる水路。烏川の川岸に出るのに用いられ、川下には舟に水車をつけた舟車があつたという。

**17 歌の橋跡**  
美峰酒類株式会社の西南端、中山道にあつたとされる。新古今和歌集の撰者で歌人として名高い藤原定家が、旅の途中に藤原家隆と偶然出会い、歌を詠み合った場所と伝えられている。

**18 紋谷家(非公開)**  
二階建て、水平の陸屋根と窓、そして一階の開き戸など、近代建築風にみえる構成が特徴。こうした意匠が、いわゆる看板建築。大正期の建築といわれる。

**19 旧日の丸幼稚園(非公開)**  
木造平屋建。入母屋屋根の表面に破風を設けて、印象的な正面となっている。側面の壁は横羽目の板張り、控え壁が柱ごとに取り付けられている。昭和初期の建築。設計金森金平。旧子守学校、旧日の丸保育園。

**20 N家(非公開)**  
赤坂へ上つていく中山道に沿って建つ街道の風情を伝える町家。二階窓の組子の模様が特色で、切妻屋根は当初板葺きであつたと思われる。創建は明治以前に遡るといわれる。

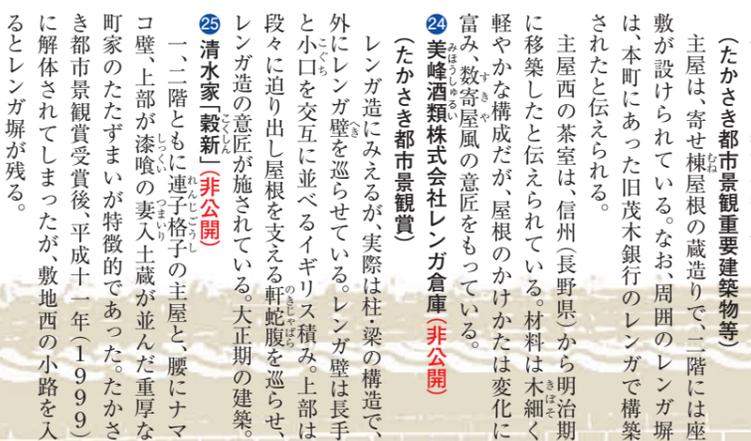
**21 増尾家(非公開)**  
二階建ての町家。米穀などを扱う店舗で、以前一階は全面引き戸、店土間のつくりであつたという。一階正面の高さが45cm以上ある差しものが特徴。

**22 岡醬油醸造株式会社(非公開)**  
二階建てだが、二階階高は低い、いわゆる厨子二階で漆喰の壁仕上げ。建築は明治期といわれる。一階は全面引き戸、かつての店舗の様子がよく残されている。

**23 財団法人山田文庫(現在図書館)**  
(たかさき都市景観賞)  
主屋は、寄せ棟屋根の蔵造りで、二階には座敷が設けられている。なお、周囲のレンガ塀は、本町にあつた旧茂木銀行のレンガで構築されたと伝えられる。

**24 美峰酒類株式会社レンガ倉庫(非公開)**  
(たかさき都市景観賞)  
主屋西の茶室は、信州(長野県)から明治期に移築したと伝えられている。材料は木細く軽やかな構成だが、屋根のかけかたは変化に富み、数寄屋風の意匠をもっている。

**25 清水家「穀新」(非公開)**  
一、二階ともに連子格子の主屋と、腰にナマコ壁、上部が漆喰の妻入土蔵が並んだ重厚な町家のたたずまいが特徴的であつた。たかさき都市景観賞受賞後、平成十一年(1999)に解体されてしまったが、敷地西の小路を入るとレンガ塀が残る。



26 清水家「穀新」 27 美峰酒類株式会社レンガ倉庫 28 財団法人山田文庫 29 岡醬油醸造株式会社 30 増尾家 31 N家 32 旧日の丸幼稚園 33 紋谷家

**26 清水家「十一屋」(非公開)**  
主屋に前庭を配置しており、街道沿いの町家の趣きと対照をなしている。昭和初期の建築といわれ、軽快な入母屋屋根や丁寧につくられた細部から、近代和風の流れにあるといえる。

**27 柳澤家(非公開)**  
間口三間の小規模な町家。二階階高は低く、全体に質素なたたずまい。切妻屋根の傾きも緩く、建築時期は明治以前に遡るといわれる。

**28 赤坂山長松寺(曹洞宗)**  
永正四年(1507)臨濟宗として金井宿に創建(開闢嶽應元海)。寛永元年(1624)曹洞宗に改宗されて現在地に移転。開山虎谷春喜。

**29 天井絵(市指定重要文化財二点)**  
享保十一年(1726)の火災で焼失した本堂の再建時、寛政元年(1789)に製作し掲げられた。作者は狩野探雲。

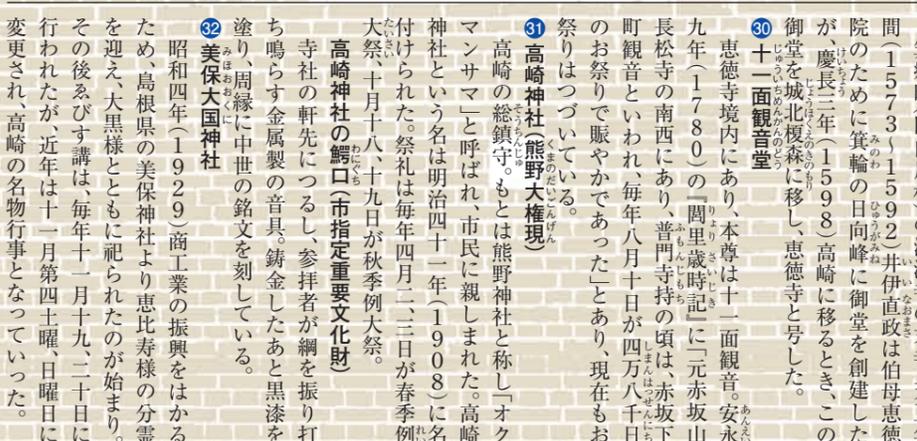
**30 松隆山恵徳寺(曹洞宗)**  
寛政三年(1798)高崎に移るとき、この御堂を城北榎森に移し、恵徳寺と号した。

**31 十一面観音堂**  
恵徳寺境内にあり、本尊は十一面観音。安永九年(1780)の「四里歳時記」に「元赤坂山長松寺の南西にあり、普門寺持の頃は、赤坂下町観音といわれ、毎年八月十日が四万八千日のお祭り、賑やかであつた」とあり、現在もお祭りはつづいている。

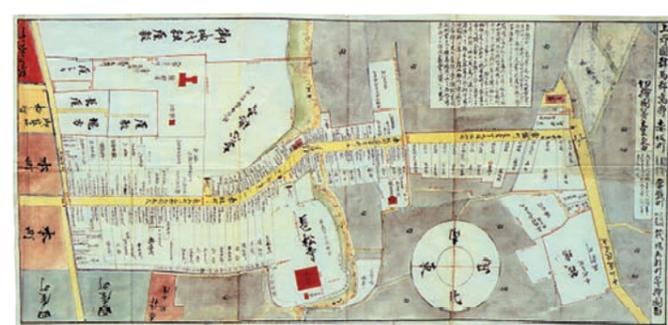
**32 高崎神社(熊野大権現)**  
高崎の総鎮守。もとは熊野神社と称し「オクマンサマ」と呼ばれ、市民に親しまれた。高崎神社という名は明治四十一年(1908)に名付けられた。祭礼は毎年四月二、三日が春季例大祭、十月十八、十九日が秋季例大祭。

**33 高崎神社の鯛口(市指定重要文化財)**  
高崎神社の鯛口(市指定重要文化財) 寺社の軒先につるし、参拝者が綱を振り打ち鳴らす金属製の音具。鍍金したあと黒漆を塗り、周縁に中世の銘文を刻している。

**34 美保大国神社**  
昭和四年(1929)商工業の振興をはかるため、高根郡の美保神社より恵比寿様の分霊を迎え、大黒様とともに祀られたのが始まり。その後多びす講は、毎年十一月十九、二十日に行われたが、近年は十一月第四土曜、日曜日に変更され、高崎の名物行事となつていった。



35 美保大国神社 36 高崎神社 37 十一面観音堂 38 松隆山恵徳寺 39 天井絵 40 赤坂山長松寺 41 柳澤家 42 清水家「十一屋」



上野國群馬郡高崎赤坂町常盤町篠場五軒町等絵図面 覺法寺所蔵

# 赤坂・常盤・歌川めぐり

—歴史と景観—

## 赤坂町・常盤町・歌川町の沿革

### 赤坂町

慶長年間(1596~1614)に成立した長い歴史を持ち、本町一丁目の交差点から中山道に入り、京口(常盤町口)につづく。町名は、坂が多く、赤坂荘の古名にちなんで付けられたといわれる。職人町としての往時の姿が偲ばれる。

### 常盤町

正徳元年(1711)間部詮房の時、赤坂村の田を埋めたのが始まり。上の木戸があったとされる近くには、御年貢地、水車があったと伝えられ、その水路はいまでも残る。

### 歌川町

烏川に沿って中山道が通り抜ける。もとは五軒町、筏場などとも呼ばれ、明治4年(1871)に歌川町となる。町名の由来は、鎌倉時代初めの歌人藤原定家と藤原家隆が旅の途中で出会い和歌を詠み合った名勝「歌の橋」からとされる。

### ※筏場五軒町

以前は筏場五軒町と呼ばれていた。歌川町の烏川向こう岸に筏場の小字が残ることや、筏場稲荷が祀られていた。その呼び名は今も伝えられている。

	3時間コース(歴史景観)
	半日コース(寺社)
	医院
	公民館
	公衆電話
	郵便ポスト
	トイレ
	銀行
	市内循環バスぐるりん(少林山線)
	市内循環バスぐるりん(高経大線・大八木線)
	広域避難場所

※駐車場は高崎市駐車場案内システムをご利用ください。

赤坂町・常盤町・歌川町マップづくりの会  
(平成16年春作成)



このマップは、「歴史的建築物活用まちづくり」の活動により、「赤坂町・常盤町・歌川町マップづくりの会」を中心に、この町の住人が作成しました。